

川崎港長期構想検討委員会（第3回）議事録

1 開催日時 令和5年6月20日（火）10時00分

2 開催場所 川崎市役所第4庁舎4階第6・7会議室

3 出席委員 委員名簿のとおり

4 議 事

- (1) これまでの主な意見と対応について
- (2) 将来のゾーニング等について
- (3) 川崎港長期構想（素案）について
- (4) その他

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人数 4名

7 議 事 要 旨

- (1) 開会
- (2) 挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 議事
 - ア これまでの主な意見と対応について
市から内容説明
 - イ 将来のゾーニング等について
市から内容説明
 - ウ 川崎港長期構想（素案）について
市から内容説明
 - エ その他
今後の取り扱いについて、市から説明

オ 意見交換

(◎：委員・オブザーバー ○：事務局)

◎

- ・川崎の臨海部の道路事情が脆弱であるため、道路の整備をより一層進めてもらいたい。

◎

- ・将来像の1つめにカーボンニュートラル社会の形成という項目を設定し、前面に押し出した点を評価したい。
- ・川崎港の強みであるコンビナート地域で企業間連携が発達していることなどを認識し、長期構想がまとめられていると思う。
- ・本構想を踏まえて、今後、我々がどうそれを実践していくか、実行していくかということが問われる、そういうステージに来ているのではないかと理解をしている。

◎

- ・本構想の実施に向けては、それぞれの段階において、引き続き企業間連携・官民連携し、取り組んでいただきたい。

◎

- ・交通アクセスの問題については引き続き検討をお願いしたい。
- ・東京港や横浜港と共存していくために、どのようなすみ分けをしていくのかがはっきりすると、本構想が分かりやすくなるのではないかと。

◎

- ・港内でのアクセスだけでなく、主要幹線道路とのアクセスも重要であり、それを踏まえた取組を進めてもらいたい。
- ・カーボンニュートラル化が進むことで例えばEV車の輸出などの変化が生まれてくる。そういった変化に対応し、取り込んでいけるとよい。

◎

- ・扇島地区の土地活用に向けては交通インフラが重要であり、早急な対応が必要。

◎

- ・今後はカーボンニュートラルとか、SDGsというものをやっていくところが選ばれる時代になってくると思うが、これまでの川崎港にはなかった要素だろう。本構想でそれらを強く打ち出していることは評価できる。
- ・川崎港の一員として、改めてこういった取組に協力をしていきたい。

◎

- ・長期構想としてよくまとまっていると感じる。本構想を具体化していくという各施策や計画が今後肝心になってくるだろう。

◎

- ・これまでの議論内容が踏まえられており、非常に分かりやすい、入りやすいものになっている。

- ・具体的な道路の整備についてはそれぞれの将来像を確実に実施する上で非常に重要だと感じる。
- ・将来像4の取組としてももう少し具体的な内容を書き込めるとよい。

◎

- ・将来のゾーニング図と交通ネットワークについては重ね合わせて表現したほうがよい。
- ・扇島地区の土地利用については今後熟度を高めていく部分もあると思うが、検討が進んだ段階で本構想のゾーニングも見直していただきたい。
- ・扇島地区のゾーニングが土地利用方針と整合がとれているのか確認してもらいたい。

◎

- ・川崎港が有する運河の奥まったところの水域や水辺は、人々が訪れたい空間として十分ポテンシャルがあると思うため、本構想の中で記載できるとよい。
- ・CO₂削減を図るということであれば、鉄道利用も必要になるが、川崎港では空間的に距離があり、カーボンニュートラルの実現に向けて難しい要素である。

◎

- ・コンテナターミナルをうまく動かすためには、ターミナルの能力を上回るぐらいの道路側の容量が必要。時間交通量が大きくなる港湾の特性を踏まえた検討をしてもらいたい。
- ・デジタルトランスフォーメーションの1つとして情報の共有が重要。他港の情報を共有しておくことで災害時においてもスムーズな対応が可能になる。
- ・今後船舶が更新されるタイミングで、CO₂ 排出量削減のため燃料を水素やアンモニアにしていくことになる。川崎に行けば水素が手に入るということになれば我が国にとってもすごい大きいことになる。

◎

- ・将来像2を実現するとなると交通量がどうしても増加することになるため、カーボンニュートラル化に向けては対応が必要。例えば高速道路に近接している特性をいかしてダブル連結トラックの活用など検討してもらいたい。

◎

- ・道路ネットワークは非常に重要であるが、時間がかかる整備になってくる。その間どういった対策ができるのか、国や川崎市と連携し、取り組んでいきたい。

◎

- ・東京港や横浜港とどういうふう共存して、あるいは助け合って連携していくのか示せるとよい。
- ・将来像3では産業の集積を目指しているが、何のためにどのような産業の集積をしたいのか分かる表現ができるとよい。

◎押田委員

- ・将来像4に「誰もが」と記載しているが、具体的にこういった相手を対象に考えているのか記載できるとよい。
- ・ゾーニングと交通ネットワークをあわせて記載したほうが分かりやすくなる。

◎

- ・カーボンニュートラル化の先導というのは、大きな1つのビジョンになる。
- ・港のカーボンニュートラル化に向けて、例えば電気推進船への更新の話だけでなく電源の再エネ化についても触れるなど、もう少し踏み込んでもいいのではないか。
- ・交通ネットワークとゾーニングの図については、1枚で表現するなど、将来の川崎港がきちんと簡便にリアリティーを持って伝わるような工夫ができるとよい。
- ・社会変化に柔軟に対応することは大切な姿勢ではあるが、それだけでなく、今後の新たな課題や足元の課題に対してもしっかりと対応する旨を記載できるとよい。
- ・本構想に基づいて実行に移していく進め方について記載できるとよい。

◎

- ・川崎港における過去の事故災害を忘れてはならない。
- ・自然災害のみならず事故災害に対する対応が重要。
- ・カーボンニュートラルを先導するにあたっては、新たな事故災害に適応した対処能力を持つ必要がある。
- ・訓練等を通じた連携強化も重要であるが、川崎港の安全安心の実現のため港の機能として、巡視船艇・消防船等の活動拠点の実現をお願いしたい。

◎

- ・持続的な発展に向けて、インフラの整備が不可欠であり、そのためには作業船が必要になる。港内での作業船の係留についても、配慮いただきたい。

◎

- ・カーボンニュートラルというのは大きな柱であり、しっかり打ち出していくべき。
- ・市民の方々に川崎港のことを理解していただくことが大事。防災などの面から、港回りだけでなく、内陸部に対してどういうふうに役立つのか伝えられるとよい。
- ・賑わいについては、交通アクセスをわかりやすくすることが大事。アクセスとセットで示すことにより、市民の方々はイメージをしやすくなると思う。
- ・市民の方々にしっかりイメージしてもらえる構想となり、それが今後、港湾計画や個別の事業にうまくブレークダウンしていくという形にできるとよい。

◎

- ・川崎港は国際戦略港湾としての位置づけがあることから、東京、横浜という隣接港との連携について、もう少し記述が加わるとよい。

(5) 閉 会